



# なかましんぶん

H31年4月1日 VOL97 小川和代



ご入園、ご進級、おめでとうございます。また、新しい春がやってきました。春に特別な思いがあるのは、私たちがこどもの頃に経験してきた、ワクワク・ドキドキ感だとか、卒業の切なさ、入学の喜び、ちょっとした誇らしさや達成感などを味わった記憶から・・・こんな風に、経験したことはその人自身の物事に対する感じ方、考え方になっていきます。「思い」さえ経験に大きく影響を受けています。誰でも自分の経験から自分自身を培っていくのですね。だからこそ、子ども達が日々その時々にはしか味わえない経験を通して、感じていく事から学び、お互いに育ち合っていくひとつひとつの事柄はとても貴重です。私たち職員は、その興味、関心、思いに寄り添いながら、私たちが知っている限りのステキな世界へ子ども達をいざなっていくべく、環境を作り、また、自らも人という環境になっていく事が使命だと思っています！

今年度も、保護者の皆様と大きな家族のように、子ども達を取り巻くかけがえのない小さな世界を作っていきたいと思います。どうぞよろしくお願い致します。

## 保育目標～すべての子どもが、かけがえのない自分に気づくように～

「笑顔」みんなで笑いあおう・「思いやり」自分もともだちも認め合える心を大切にする

「誇り」知りたい！ やってみたい！ 毎日を大切におおきくならろう・「こどもらしさ」こどもらしくのびのびと

本当に子どもっておもしろいんです。とって一人前なのです。だからこそちゃんと一人前扱いをしなくては失礼なのです。子ども達が泣いてるとき、大人は泣き止ませることに必死になったりして、子ども達が笑っていなくても、泣いてなかったら気にしなかったりして・・・相手が大人だったらどう対応するかしら？大切な人が泣いていたら、その気持ちをおもんばかり、その気持ちを尊重して寄り添う事でしょう。大切な人が笑っていなかったら、気になってしかたないことでしょう・・・。子ども達は、たとえ0歳の子であっても、ママが泣いていたら、その感情を一生懸命に受け止めています。何もできなくても寄り添っています。ママが笑っていなかったら、一生懸命笑わせようとおどけたり、とても心配そうな顔で見上げていたりします。そんな一人前の子ども達に、大人が、なんでもいいからとにかく泣き止ませようとするなんて、こどものこと馬鹿にしていると思いませんか？私たちは、専門職として「笑顔」や「思いやり」をこんな風に考え、行動しなくてはならないと思っています。

本当に子どもってすごいんです。スポンジみたいに知識をどんどん吸収していきます。小学校に行く頃になると多岐にわたって考える思考力や、その為の経験や知識を持っています。そうなる何かが無難になっていくもので逆に面白くなかったりして・・・知識を持たないうちは、子ども達は直感にあふれています。私達に感じる事ができないような発想でいろんな物事を感じています。その自由さ、広さ、深さは、大人の真似できるようなものではありません。そして、様々なことに興味や関心が無限に広がっていくのです。思わずやりたくなってしまいう事や、心から湧き上がっていることに従って、とても能動的に、多岐にわたって学んでいきます。その学びは、学校のような受動的な学びとは全く違う質の物です。だからこそ、学校に行く前にこのような学びのできる環境、時間の保障をたっぷりとしなくてはならない。私たちは、専門職として「誇り」や「こどもらしさ」をこんな風に考え、行動しなくてはならないと思っています。

そしてこれらは特別なことではなく、なんでもない日常の積み重ねの中にちりばめられています。行事は子ども達の学びがより深く広くなっていく大切なきっかけとする事でしょう。私達、保育者と保護者の皆様で、子ども達の大切な一年が最善の一年になっていくように見守り、人生の先輩として私たちの知っている「素敵なこと」「大切なこと」というエッセンスをたくさん伝えていきたいと思います。